

中浦ジュリアン記念公園

中浦ジュリアン（1567-1633）は1582年に日本のキリスト教の大使としてローマに派遣された4人の少年、天正遣欧使節の1人でした。この公園の付近で生まれたとされる中浦は、有馬のセミナリヨで学びました。彼のキリシタンとしての人生は、弱冠15歳で千々石ミゲル、原マルティノ、伊東マンショとともに天正遣欧使節に選ばれたことで輝かしい転機を迎えました。この使節団の派遣はイエズス会の巡察師アレックスandro・ヴァリニャーノの発案で、日本で初めてキリスト教に改宗した大名大村純忠を含む3人のキリシタン大名によって後援されました。中浦たちは、教皇グレゴリウス13世、教皇シクストゥス5世、スペイン国王フィリップ2世に謁見した後、1590年に日本に帰国しました。

豊臣秀吉が1587年にキリスト教神父の追放令を出したため、中浦が帰国した当時の日本は、8年前に出発した時よりキリスト教に不寛容になっていました。中浦は1601年から1604年までマカオで学んだ後、1608年に司祭として叙階されました。1614年に幕府が日本全国でキリスト教を禁止すると、外国人、日本人を問わず多くの司祭が海外に逃れました。中浦は国内に残ることを選択し、潜伏下で密かに信徒たちを指導しました。1632年の暮れ、60代半ばになっていた彼は徳川幕府に捕らえられました。何ヶ月にもおよぶ獄中生活の後、中浦は1633年10月18日に穴吊りの拷問にかけられ、4日目の10月21日に亡くなりました。中浦ジュリアンは、2008年にローマ教皇ベネディクト16世によって188人の日本人殉教者の1人として列福されました。

この小さな公園には、ヨーロッパから持ち帰られた天正遣欧使節関連の資料を収めた簡素な資料館が併設されています。